

地域と社会と私たちの“今”をつたえる

vol. 253

2026
Spring

ISSN 2432-5295

Letters Arpak

レターズ アルパック



持続可能な社会への、一歩

特集 1

「環境」が、暮らしと経済の真ん中へ

特集 2

駅前からにじみ出る、まちの個性

CONTENTS

持続可能な社会への、一步

特集1

「環境」が、暮らしと経済の真ん中へ

- | | | |
|-------|--|---|
| topic | 持続可能な未来をデザインする
— アルパックの環境分野の挑戦 — | 1 |
| 事例1 | 使い捨てから「循環」へ、イベントの風景を変える
— 大阪府によるリユース食器導入の挑戦 — | 2 |
| 事例2 | 日本における洋上風力発電関連産業と
サプライチェーン構築について | 3 |

特集2

駅前からにじみ出る、まちの個性

- | | | |
|-----|---|----|
| 事例3 | 天下茶屋駅周辺まちづくりに取り組んでいます
— 第三期西成特区構想の推進へ — | 4 |
| 事例4 | 都島区まちづくりビジョン2040策定に向けて | 6 |
| 事例5 | 名古屋駅西地区まちづくり方針（仮称）作成支援業務 | 8 |
| 事例6 | 「名古屋駅地区街づくり協議会」のエリマネ活動について | 9 |
| 事例7 | 地域産業プラットフォーム「ワークワクワク河内長野」
4年間の歩みと、次なる10年への挑戦 | 10 |

適塾路地奥サロン 開催報告 12

飯テロ日記 vol.1「ウマイヒツジに手を染めて」 13

アル散歩 JR吹田駅前「吹田さんくす」 裏表紙

今回の特集テーマ

持続可能な社会への、一步

特集1 「環境」が、暮らしと経済の真ん中へ

特集2 駅前からにじみ出る、まちの個性

ひとくちに「環境」といっても、身近な生活環境から地球環境まで対象とするスケールは大きく異なります。私たちを取り巻くあらゆるものが「環境」であり、その捉え方やスケールによってアプローチの方法も変わってきます。私たちの暮らしや営みは「環境」に大きく影響されると同時に、現代では私たちのさまざまな活動が「環境」に大きな影響を及ぼすようになっています。

アルパックは「持続可能な地域づくりへの貢献」をミッションとしています。暮らしを豊かにし、営みを活性化するのがまちづくりの目的だとすれば、まちづくりが向き合う対象は「環境」そのものだといえます。個性があつて居心地のよい、快適な「環境」をいかに生み出していくのが問われています。

ここまではあくまでも人を中心とする考え方です。しかし「人の命が地球よりも重い」とは必ずしもいい切れない現代の社会では、人間だけを最優先するのではない「モア・ザン・ヒューマン」の視点が不可欠です。もはや「人中心の駅前空間をつくる」といった発想だけでは通用しない時代になりつつあるのです。

本号では、こうした時代の変化を見据えたアルパックのチャレンジの一端をご紹介します。

Topic

持続可能な未来をデザインする — アルパックの環境分野の挑戦 —

サステイナビリティ・マネジメントチーム 長澤 弘樹

45年超の歩み、それは「目の前の課題」から始まった

アルパックの環境分野における挑戦は、今から45年以上前、まだ「3R」や「SDGS」という言葉すらなかった時代に遡ります。当時の社会課題は、20年間で5倍以上に急増した家庭ごみや、国会でも問題となった空き缶のポイ捨てなど。この「目の前にそびえ立つ課題」を単に清掃工場の建設で乗り切つて終わりにするのはなく、発生・急増のメカニズムを探り、削減の方法を議論し、どうしたららごみの少ない社会にできるのかという、泥臭くかつ切実な課題に向き合い続けてきたのがアルパックの環境分野の原点です。

当時から脈々と続くのが、「ごみを見て、実態を把握し、実現可能な仕組みを築く」という現場主義の精神です。私たちは、これまでずっと、この精神で業務を進めてきました。

時代の要請とともに、「環境」は世界の共通言語へ

しかし、時代は大きく動きました。環境問題は「目の前の課題」から「世界規模での連帯が必要な人類の生き残り戦略」へと劇的に進化しています。

それに呼応して、私たちの業務範囲も大きく広がっています。地球規模の気候変動を食い止める「地球温暖化対策」、失われゆく生態系を守る「生物多様性保全」、そして持続可能なエネルギーの根幹を担う「再生可能エネルギー」の導入支援まで。合わせて廃棄物分野もレアメタル等の稀少金属の問題やグローバルなプラスチック汚染などへと広がっています。今や「環境」

は、特定の分野を指す言葉ではなく、市民から企業まで、あらゆる社会活動の前提条件となっています。

行政の「計画」から、市民・企業の「実践」のフェーズへ

今、環境分野で起きている最もエキサイティングな変化は、解決の「主役」の交代です。これまでは行政が中心となってルールを作り、市民や事業者が実行するという棲み分けが主流でした。しかし現在、地球温暖化対策やサーキュラーエコノミー（循環経済）といった巨大なテーマにおいて、解決の鍵を握っているのは、最前線にいる企業や、日々の生活を送る一人一人の市民です。

今や環境対策は「コスト」や「守り」ではありません。企業にとっては新しいビジネスを生む「チャンス」であり、市民にとっては生活の豊かさを実感できる「希望」となっています。例えば、私たちが愛知県で支援するサーキュラーエコノミー（循環経済）の実践では、企業への伴走支援による事業化に取り組んでいますが、これまでコストをかけるだけであった環境対策が、新たなビジネスへと昇華していく姿を見ると、この「チャンス」が環境ビジネスにパラダイムシフトをもたらしていることを実感します。

環境の「幅」と「質」の変化
— 未来への新たな一歩 —

今回のレターズでは、私たちが手がける多種多様な業務の中から、特に「環境分野の広がり」や「主役の変化」を実感いただける2つのプロジェクトをピックアップしてご紹介しています。

◆リユース食器の普及促進：環境配慮を「当たり前」の文化に

単なる「プラごみ削減」ではなく、消費者の行動そのものを変容させ、環境配慮型のライフスタイルをビジネスモデルとしても定着させる試みです。

◆洋上風力発電の導入支援：次世代の主力電源を築く

エネルギー自給率の向上と脱炭素を両立させるため、地域社会と調和しながら巨大なインフラを構築する、スケールの大きな挑戦です。

これまで「廃棄物対策」の時代から大切にしてきた理念を守りつつ、ライフスタイルの変革、そして次代を担うエネルギーまで、私たちの仕事はひろがってきました。環境の重要性がますます高まるこれからの社会において、私たちはこれまで以上に前向きに、かつ楽しみながら、サステナブルな未来のデザインに挑戦します。

Profile

長澤 弘樹 (ながさわ ひろき)

入社以来、廃棄物対策や地球温暖化対策、生物多様性保全、循環経済の実践等に幅広く取り組む「環境政策」のエキスパート。

サステイナビリティに関する調査・計画・政策提言のみならず、社会実装に向けた実証事業や事業化まで、多種多様な地域の環境課題解決に日々向き合っている。

使い捨てから「循環」へ、イベントの風景を変える

— 大阪府によるリユース食器導入の挑戦 —

サステナビリティマネジメントチーム 藤田 太裕



「大阪国際空港雪まつり」で導入

華やかなイベントの裏側で、常に課題となってきたのが大量に排出される「使い捨てプラスチック食器」の問題です。プラスチックごみ削減・資源循環の先進的な事例として、2025年の大阪・関西万博では、キッチンカーが多く出店するフードトラックエリアで、リユース食器を導入し、使い捨てプラスチック食器の削減を図りました。

大阪府では、「大阪府循環型社会推進計画」において、プラスチックごみ対策を重点化し、排出量等の数値目標を定めて

おり、今回、府民のプラスチックごみ削減のための意識醸成・行動変容を促す取組の一環として、

イベントにおける資源循環を加速させるべく、「イベントにおけるリユース容器の導入促進事業」を展開しました。

リユース食器と言われると、特別な食器・運用だと感じる人もいると思いますが、例えば、学校給食の配膳は、食器もセットで各クラスに配られ、食後はクラスごとに返却していましたし、ショッピングセンターのフードコートで提供される商品は、店舗の食器に盛られ、食後は店舗の窓口に返すといった運用をしています。食器を繰り返し使うという状況はむしろ、日常の風景です。繰り返し使った方が効率的・経済的という認識は、皆さんお持ちのはずです。

一方で、イベント会場では、食器を繰り返し使う環境を整えるのは難しく、会場で提供される飲食物は使い捨て食器で提供されることが多くなります。

そこで今回の事業は、リユース食器をイベントの主催者や出店者が当日借りて、各店舗で商品を提供、お客さんは食べ終わったりリユース食器を、エコステーション（リユース食器の回収場所）に返却、回収したリユース食器は貸出事業者が持ち帰り洗浄して、また貸し出ししていくという、環境に配慮したイベントの形を実証しました。

今回の実証事業では、FM802が主催する「FUNKY MARKET」、大阪国際空港雪まつり実行委員会、横手市（一社）横手市観光推進機構、（一社）横手市観光協会が主催する「大阪国際空港雪まつり」、茨木夜市実行委員会（協力：FIC

ベース株式会社）が主催する「茨木ヨアソビ・ヨ市」の3イベントでリユース食器を導入し、のべ15,000個のリユース食器が導入されました。

実証事業の結果を踏まえて、環境効果や導入時のポイント等をまとめたガイドライン等を作成し、府内のイベント主催者にリユース食器の導入を働きかけてまいります。



業務名：『イベントにおけるリユース容器の導入促進事業』に係る業務委託
 期間：2025年7月～2026年8月
 発注元：特定非営利活動法人地域環境デザイン研究所 ecotone
 担当：長澤弘樹、齋藤友宣、藤田太裕

「大阪国際空港雪まつり」で導入

[出所] 福岡県風力発電産業振興会議（福岡県）ホームページ

日本における洋上風力発電関連産業とサプライチェーン構築について

地域産業イノベーショングループ 山部 健介

日本では、2020年10月に2050年カーボンニュートラルを目指すことを宣言したことで、本格的に脱炭素社会の実現を目指す取組が進んでいます。その中で、重要な要素となる再生可能エネルギーに関しては、2050年における主力電源として最大の導入に取り組みとしており、特に、洋上風力発電はその導入拡大が期待されています。

近年は世界的にも洋上風力発電の導入が進んでおり、欧州や中国本土を中心に市場形成が先行していますが、日本国内においても、海洋再生可能エネルギー発電事業の長期的かつ効率的な実施を目的とする「再エネ海域利用法」に基づき、日本各地での案件形成が進んでいます。

令和6年度は経済産業省九州経済産業局による洋上風力発電関連産業に関する国内でのサプライチェーン構築可能性を通じて、産業全体・部位別の商流やサプライチェーン構築とともに、主に九州地域における地域の中小企業（以下、地域企業）の同産業への参入可能性についても調査を行いました。洋上風力発電設備は、構成機器・部品点数が多く（数万点）、事業規模も数千億円に及ぶこともあるため、各地での案件形成に伴い、洋上風力発電関連の産業集積や地域企業への経済波及効果も期待されています。

また、今年度は九州大学洋上風力研究教育センター 総会・セミナーでの講演・パネリストとしての登壇とともに、昨年度



[出所] 九州大学洋上風力研究教育センター 2025年度洋上風力産学官連携コンソーシアム総会・第3回セミナー

に続いて福岡県風力発電産業振興会議における総会・勉強会での講師・モデレーターとして登壇させて頂きました。学識の先生方や行政関係者、大手風車メーカー、企業等の皆さまとともに、福岡県・九州地域における洋上風力発電関連産業とサプライチェーン構築について議論する機会を頂戴しました。日々刻々と変化するまさに現在進行形の産業であるため、最新状況にアンテナを張りつつ、微力ながら同産業の発展に貢献できればと思っております。



天下茶屋駅周辺まちづくりに取り組んでいます — 第三期西成特区構想の推進へ —

都市再生・マネジメントグループ 絹原 一寛

天下茶屋駅は南海電鉄・大阪メトロ堺筋線の乗り入れる駅で、1日の乗降客数が15万人以上と沿線でも屈指の数を誇ります。近傍にも多数の駅があり、飲食店や商業施設などが集積、常に賑わいがあります。一方で、暮らし・環境に目を向け

ています。

天下茶屋駅は南海電鉄・大阪メトロ堺筋線の乗り入れる駅で、1日の乗降客数が15万人以上と沿線でも屈指の数を誇ります。近傍にも多数の駅があり、飲食店や商業施設などが集積、常に賑わいがあります。一方で、暮らし・環境に目を向け

大阪市西成区。天王寺や新今宮にも近接する利便性、下町の良さや人の温かさが息づく魅力的な街ですが、一方でネガティブなイメージが先行しがちでもあります。この間「西成特区構想」により徹底した環境改善や教育・子育てへの重点投資を官民連携で進めており、昨今はインバウンド観光の急増や外国人の居住の増加で、まちの様相も劇的に変わりました。そんな中、天下茶屋駅周辺を区の未来のイメージを先導する街として位置づけ、まちづくりを進めていく取り組みがスタートし、当社がお手伝いをしています。

大阪市西成区。天王



雑誌社とタイアップして「食」の魅力を発信

天下茶屋のオモロイ人・キャラがカードになった? まち人カードバトル ガチャもんCollection

天下茶屋のまちなかにくりだし、ガチャもんと出会って、カードをコレクションしよう!
11月22日(土)・23日(日)には北天下茶屋公園でカードゲーム交流会も実施します。



社会実験「てんがちゃん!」開催の様子と
天下茶屋の「ひと」に着目したトレーディングカード

と、密集した住宅地が面的に広がっており、老朽化した空き家なども散見、特区民泊への転用も多く、子育て層の定着が進まない、分譲マンションなどの受け皿となる住宅供給も進まないといったまちの更新の課題があります。若年層は急増しているもの、およそ半数が外国人とのデータもあり、共存共栄を図りつつも多文化共生の課題もあります。子育てをはじめ厚い支援のネットワークが構築されているものの、まちの魅力をどう訴求し、イメージアップから定着へ図っていくか、シビックプライドを醸成していくか。など、複雑な課題が絡み合っている状況です。

令和5年度から、まちの課題の可視化を図るべく、様々なデータ分析、リサーチや類似都市・エリアのヒアリングを実施、令和6年度はソフト事業・ハード事業をどう組み合わせる展開するか、シナリオの検討を行いつつ、先行してソフト事業への足掛かりとなるまちのキーパーソンへのヒアリング、ワークショップを開催し、まちづくりの兆しづくりをうかがってきました。そして、令和7年度から、本格的にソフト事業からのエリアブランディングを進めるべく、地域やキーマンの皆さんとの推進のテーブル・組織づくりや、エリアの未来の可視化に

取り組んでいます。雑誌社ともタイアップして「食」の魅力を戦略的に発信するため「おいしい! 天下茶屋」を発行。11月には実行委員会によるトライアル「てんがちゃん!」を開催。濃いキャラの「ひと」に着目したトレーディングカードを開発し、遊びながらまちの人と仲良くなれる仕掛けは、参加者や店舗の方からも大好評でした。この検証・経験を生かして、次のステップを議論中です。

天下茶屋駅前、乗換駅、終着駅といったイメージしかない、という方が大半かもしれないませんが、私は、来れば来るほど、人と繋がれば繋がるほど「沼る」街だなど感じていきます。この街を愛する方たちとのネットワークを原動力として、ポテンシャルを持続的に生かしていく方策を、構築していければと思っています。

業務名： 天下茶屋駅周辺地域のまちづくり検討調査業務委託
期 間： 2023年10月～
発注元： 大阪市西成区
担 当： 絹原一寛、木下博貴、吉岡志穂、芳田知紀

都島区まちづくりビジョン2040策定に向けて

都市再生・マネジメントグループ 吉岡 志穂

都島区は、梅田まで約10分と都心へのアクセスに優れたつつ、三方を川に囲まれ、水や緑を身近に感じられる落ち着いた住環境が魅力のまちです。近年はファミリー層にも人気があり、人口は微増傾向にありますが、今後は大阪市全体で人口減少が見込まれています。加えて、先行きが不確実な時代において、これまでと同じやり方だけでまちの活力や魅力を維持することは容易ではありません。

そこで、将来の長期的な変化に対応しながら、より戦略的にまちの魅力を創出・育成・醸成していくため、長期的な視点で区の将来像を示す「都島区まちづくりビジョン2040」の検討がスタートしました。今年度から当社がビジョン策定をお手伝いしています。ビジョンの検討では、データ分析に加え、区内で活動される方々へのインタビューや、区民の皆さまと将来像を描く地域別ワークショップを通じて、都島区のポテンシャルと課題を整理し、2040年にめざす姿を具体化しているところです。

ビジョンの検討と並行して、京橋駅近くの京橋公園（コムスガーデン）では、先行的な取組を進めています。京橋は「ディープな飲み屋街」の印象が強いかもしれませんが、JR・京阪・地下鉄が集まる大阪第4のターミナルです。周辺では公園や駅のリニューアル、再開発などまちづくりの動きも進んでおり、商業・ビジネス（大阪ビジネスパーク等）・観光（大阪城公園）・



教育研究／イノベーション（大阪公立大学）など、多様な機能が融合したエリアを形成しています。

本ビジョンでは、区のシンボリックなエリアとして京橋エリアを「ターゲットエリア」に設定し、京橋駅周辺に集まる人の流れを区内へ広げ、回遊を生み出す取組を試行的にスタートしました。京橋公園を起点にぎわいを創出し、滞在しやすい空間づくりや新たなイメージづくりにつなげることをねらいとして、イベント「京橋にぎわいマルシェ」を昨年10月にプレ開催しました。コンセプトは、都島・京橋の「グリーン（緑や公共空間）」を活用し、区民が新しいコト・モノ・ヒトに出会える「オアシス」を増やし「くらし」をめやす「Green Oasis Miyakojima」です。新しいチャレンジを後押しし、関わる人同士のつながりが自然に広がることで、京橋・都島の風景やイメージが少しずつ更新されていくことを目標としています。

当日は雨の時間帯もありましたが、音楽、グルメ、雑貨、ワークショップなどを多くの方に楽しんでいただき、京橋公園にこれまでと違う過ごし方の風景が生まれましました。公園が「通過する場所」から「立ち寄って過ごす場所」へと変わる手応えも得られ、今後の可能性を確認できた機会となりました。

プレ開催の結果を踏まえ、今年3月に本格開催を予定しています。現在には有志メンバーによる実行委員会を立ち上げ、「こ

んなチャレンジがしたい」「京橋公園でこんな過ごし方をしてみたい」といったアイデアの実現に向けて準備を進めています。10月のプレ開催よりも区民の皆さまやプレイヤーの皆さまとの関係性を広げ、継続的な取組として育てていく段階に入っています。

自分が住んでいる区でありながら、都島区には、これまで認識していた以上に魅力的な人や資源があることを、本業務を通して実感しました。「便利で住みやすい」だけにとどまらない、暮らしを豊かに彩る人・コト・モノに出会えるまちへ。区民の皆さまがワクワクする未来を描けるよう、引き続き取り組んでまいります。

業務名： 都島区まちづくりビジョン 2040 策定に向けた
検討調査業務委託
期 間： 2025年7月～
発注元： 大阪市都島区
担 当： 絹原一寛、中井翔太、羽田拓也、吉岡志穂、
芳田知紀、大田勇樹、竹中健起

右・左上：マルシェの様子 左下：企画メンバー集合写真



名古屋駅西地区まちづくり方針（仮称） 作成支援業務

都市・地域プランニンググループ 福井 秀樹

本業務は、名古屋駅西地区のまちづくりの推進に向けて地域と行政が協働して取り組むため、地元学区やまちづくり協議会の関係団体、名古屋市及びアドバイザーにより構成される「名古屋駅西地区まちづくり推進会議（以下「エキニスタウン会議」という）」での意見交換を踏まえ、リニア中央新幹線開業後を見据えた名古屋駅の西地区における将来像等を示す「名古屋駅西地区まちづくり方針（仮称）」（以下「まちづくり方針（仮称）」という）を作成するための支援（下記①～③）を目的として実施しました。

①エキニスタウン会議の資料作成

②イメージパースの作成

めざすまちの将来像やまちづくりの取り組みをイメージしたパースの作成

③まちづくり方針（仮称）素案の作成

表紙デザインやイラスト等を含めたレイアウトを検討し、冊子形式の素案を作成

さて、東海道新幹線など南北方向に主要な路線が並ぶ名古屋駅には、駅舎を挟み東地区と西地区が存在します。超高層ビルが立ち並ぶ東地区は、名古屋を代表する都市景観の一つであり、ご存知の方も多いと思われますが、新幹線ホームから眺望できる西地区は、中小の建物が混在し、東地区とは異なる都市景観を呈しています。歴史を紐解くと、鬧市として賑わった戦後を経て、1964年に駅西側に東海道新幹線が開業し、これをきっかけにビジネスホテル、予備校が

進出しています。若者が集まることから、近年ではサブカルチャーに関する店舗なども増加しています。また、駅西方面は名古屋出身の武将、豊臣秀吉や加藤清正ゆかりの地でもあります。

現在、名古屋駅では、既存の駅舎と直交するリニア中央新幹線（地下駅であり、その上部空間を広場として活用）の工事が進められています。この機会を捉え、駅西地区ならではの個性を活かしたまちづくりが前述のように進められています。リニア開業は当初の予定より延期されてしまいましたが、まちづくりはトーンダウンすることなく、着実に進められているとの印象を受けました。

業務名： 名古屋駅西地区まちづくり方針（仮称）
作成支援業務委託
期間： 2024年12月～2025年3月
発注元： 名古屋市
担当： 山本昌影、福井秀樹



「名古屋駅地区街づくり協議会」のエリマネ活動について

地域再生デザイングループ 宮 英理子

昨年4月より、「名古屋駅地区街づくり協議会（以下、名駅街協）」の事務局業務に従事しています。名駅街協は、2008年の発足以来、名古屋駅地区の魅力向上を目的とした提言や活動を推進する任意のエリアマネジメント団体です。現在は名古屋駅地区の地権者を中心とした96社の会員企業様に参画いただいています。

当協議会は、名古屋駅地区の将来像検討を行う検討委員会、駅前地区の清掃、花壇の維持管理、防犯パトロールを行う環境向上活動、打ち水や綱引き、イルミネーション点灯といった、にぎわい創出活動のほか、公共空間の利活用を検証する社会実験、収益事業として広告付歩行者案内板事業に取り組んでいます。アルパックは、会員様の連絡窓口を始め、会議体の運営支援や、イベント運営、経理など、幅広い事務業務を担っています。

協議会の中でも反響の大きい活動が、昨年2度目の実施となる、名古屋駅地区の企業対抗の綱引き大会です。メディア各社でも取り上げられ、参加者の皆さまからも社内外の交流が生まれたと好評をいただき、会員企業以外の方々に協議会活動を広く認知いただく機会にもなっています。

名古屋駅地区は、リニア開業や駅前広場再整備を見据え、車中心から歩行者中心の空間へと大きく転換する局面にあります。昨年は、名古屋市中心部の魅力向上を目的とした、産学民連携による「N

AGOYA都心会議」が発足しました。また、名駅街協も主催に関わり、まちづくり団体の若手交流会を実施するなど、事業者、まちづくり団体の横の連携も広がっています。

駅前空間がダイナミックに変化しようとする中で、行政や地権者、事業者の方々とともに、将来像について検討できることは貴重な機会であると感じることも、多様な人たちが共存できる公共空間の在り方とは何か、日々の業務を通じて問い続けています。

これまでは行政の上位計画策定支援など長期的な視点でロジカルに進める業務が中心でしたが、協議会業務では清掃やイベントといった「足元のまちづくり」に携わる機会が増えました。現場での臨機応変な対応や迅速な判断が求められる場面も多く、行政、民間事業者、警察など、協働する主体の方々も幅広くなりました。

大きな変革期にある名古屋駅地区の実務に関われることに感謝しつつ、引き続き、まちづくりの構想から実践まで、貢献していきたいと思っています。

業務名： 名古屋駅地区街づくり協議会事務局運営支援業務
期間： 2025年4月～
発注元： 名古屋駅地区街づくり協議会
担当： 木下博貴、絹原一寛、宮英理子、大塚純子





ビジョンを考えるワークショップの様子



地域産業プラットフォーム 「ワークワーク河内長野」 4年間の歩みと、次なる10年への挑戦

地域産業イノベーショングループ 山口 泰生



大阪関西万博出展の当日写真



河内長野市内の事業所の皆様が仕事の現場を公開し、市民などを対象に地域の仕事の魅力を直接伝えるオープンカンパニー事業「ワークワクワク河内長野」は、今年度で発足から4年目を迎えようとしています。普段は見ることのできないプロの技や、地域を支える様々な仕事に触れることで、地元産業への理解が深まることから、昨年度の来場者アンケートでは満足度が9割を超え、その半数近くがリピーターであるなど、多くの方から高い支持をいただいています。

私自身、入社2年目からこのプロジェクトの担当として関わらせていただいております、非常に思い入れの深い仕事となりました。私はあくまで「外部の人間」ではありませんが、河内長野市役所の皆様、そして地元の企業の皆様には、いつも温かく迎え入れていただいています。現場の皆様の「熱」を間近で分かち合えることに、この場を借りて心より感謝申し上げます。

これまで本事業は、夏と秋の年2回のメインイベントを大切に継続しつつ、参加企業様のスキル向上や交流を深めるための「定例会」を2ヶ月に1回のペースで開催してきました。その結果として、実際に新しい採用が決まったり、企業間での受発注が生まれたりなどの嬉しいお声をいただくまでになりました。単なる一過性のイベントではなく、地域の産業を共に支え合う「プラットフォーム」としての機能が、皆様の手によって着実に育まれています。

こうした夏・秋のイベントは、次世代を担う子どもたちに「まずは地元の企業を知ってもらおう」ための大切な「種まき」です。この種を自走的なものにするため、今年度からは参加企業様を中心となって運営を担う「部会」を立ち上げました。当社としては各部会が自立的に動けるように打合せ等に適宜入りながら伴走していきます。来年度以降もこの体制を継続することが決まっており、皆様が主体となって地域を盛り上げようとする姿勢に、私自身いつも背中を押されています。

また、組織としての足場を固めるために、規約等の文書を整え、さらにワークショップを通じて「10年後の将来像」についても語り合いました。そこで掲げられたビジョンは、「次世代に選ばれるまち、河内長野」。私たちはこの目標を絵に描いた餅にしないため、明確な数値目標(KGI)を設定しました。

この目標を達成するためには、将来への「種まき」を続けながら、並行して「今、働きたい若者」と企業を直接結びつける具体的な挑戦も必要です。その一つとして、現在、高校や大学との連携強化を始めています。すでに市が主導されている高校連携ツアーでは、実際に地元への就職が決まったという心強いお話も伺っています。皆様が守り続けてきた技術や想いを、一人でも多くの若者に繋いでいけるよう、今後は学校との架け橋となる活動をより一層深めてまいりたいと考えています。

一般的に、こうした地域活性化の取組は、「打ち上げ花火」的に終わってしまうことも少なくありません。しかし「ワークワクワク河内長野」がここまで歩んでこられたのは、官民が手を取り合い、一歩ずつ信頼を積み重ねてきた皆様の真摯な努力があったからこそだと考えています。

当社としては、この4年間で皆様からいただいた確かな信頼と温かいご縁を大切に、これからも皆様の隣で歩み続けてまいります。変化の激しい時代ではありますが、地域の皆様と共に悩み、共に汗をかきながら、河内長野の産業がより豊かに、より力強く輝き続けられるよう、微力ながら全力でお手伝いさせていただきます。所存です。

今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

業務名：	オープンカンパニー事業サポート業務
期間：	2023年5月～
発注元：	大阪府河内長野市
担当：	山口泰生、山部健介、高野隆嗣

メインイベントの当日写真



適塾
路地奥
サロン

第72回「公共空間活用、空き家活用、小規模開発、QURUWA 戦略、それらをつなぐ自治」

studio36 畑 克敏 氏

第72回適塾路地奥サロンは、studio36 一級建築士事務所共同代表、株式会社南康生家守舎代表をされ岡崎市を拠点に活動をされている畑克敏氏をお招きしました。

地方都市でアクティビティが減少している現状に対し、ヤン・ゲール氏の理論を発展させ、「イベント」を主催することで街の“あるべき姿”を先に描き、その観察から空間や建築、さらに都市へと定着させていく「イベント → アクティビティ → 空間 → 建築 → 街の循環」というアプローチの重要性についてお話しされました。講演では、マルシェの開催、中山間地域との連携、家守としての取り組みなど、実際の活動がどのように街とつながっていくのかを、具体例を交えてご紹介いただきました。

また、QURUWA 黎明期に行政の言語を理解する役割を担った経験を経て民間企業を設立されたからこそ、自らが

プレイヤーとなり、小さなエリアから行動を起こし続ける姿勢が大変印象的でした。生活者としての当事者意識と建築家としての問題意識を併せ持ちながら、関わるプロジェクトに「公益性」を付与していくという「エリア思考」に基づき、実践を重ねながら街の未来をつくり出している点は、今後のまちづくりを考えるうえでも大変参考になる内容でした。

(梅村 夏帆)



適塾
路地奥
サロン

第73回「『都市の鍼治療』というアプローチ」

龍谷大学政策学部 教授 服部 圭郎 氏

第73回の適塾路地奥サロンでは、龍谷大学政策学部の教授である服部圭郎先生にお越しいただき「『都市の鍼治療』というアプローチ」というテーマでご講演いただきました。

「都市の鍼治療」とはブラジルの都市デザイナーであるジャイメ・レルネル氏によって提唱された都市デザインの方法であり、お金がなくとも知恵を使うことで都市問題の解決を図るという考え方で、講演ではレルネル氏がクリチバ（ブラジル）で実践した鍼治療の例、約360事例から見出した8つの

鍼治療のアプローチ、相対的で事例主義に陥らない事例の理解の姿勢などの内容をお話しいただきました。「都市の鍼治療データベース」の記事を表示しつつ、豊富な取材経験を基にした参加者の皆様との質疑応答も活況でした。

事例を交えた鍼治療の紹介やそのアプローチの分類についてはもちろんのことですが、特に一つの事例に偏重してしまう事例主義に対するお話は参加の皆様にも興味深い指摘だったのではないかと思います。多くの事例を集めることでそれぞれを相対化して比較すること。また事例ごとにどのような問題に対してどのような場面で役に立つのかをより詳細に分析していくことなど。都市に関わる上で見聞きする多くの取り組みからより多くを得るために個人的にも心がけたい考え方でした。

(吉田 瑞希)



適塾
路地奥
サロン

第74回「まちの『地域らしさ』を解き明かす」

京都府立大学 生命環境科学研究科 准教授 関口達也 氏

第74回適塾路地奥サロンでは、京都府立大学生命環境科学研究科 関口達也准教授をお招きし、「まちの『地域らしさ』を解き明かす - まちあるきワークショップで集めたデータをヒントに -」をテーマにご講演いただきました。

まちの特徴を「〇〇（地域）らしい雰囲気が残っている」などと表現するように、「地域らしさ」は用いやすい言葉となっています。一方で、「〇〇（地域）らしい場所・モノ・コト」は何を表しているのか、客観的に説明することは容易ではありません。人は、何を・どのように地域らしさと捉えているのか、飛騨市古川町での研究プロジェクトに基づいてお話しいただきました。

講演では、非居住者は目につきやすい建物や販売物等を、居住者やリピーターは個人的な思い出をもつ場所や人等を地域らしさと捉え、まちの理解度の違いによって地域らしい

と感じる対象自体も異なることが検証されました。また、まちに根付いた生活文化や精神を取り入れている新しいものについても、地域らしさを持つものとして認識される可能性が示唆されました。

地域住民や観光客など多様な属性の人々がまちに関わる中で、関わり方によって異なる地域らしさを表す場所やコトなどを正しく理解し、それら「地域らしさ」を残すための方策を提示することで、まちづくりに関わっていきたく感じました。

(森 崇太)



アルパックのぐるメンがお届けする

飯テロ日記

vol.1

「ウマイヒツジに手を染めて」



あそこが
取引現場か!!

ドクドク



こいつは
ラメエ生ハム
ヤベえブツだ……



従来、7番目の干支の「午」は奇しくも奇蹄目、8番目の「未」は偶然にも偶蹄目でしたが、20年ほど前に奇遇にも偶蹄目が鯨偶蹄目になっていました。クジラもカバも一緒だったので、今後、河馬の立ち位置をはっきりさせるには河羊とでもするシカないですね。

ドアを開けると、嬉々として羊肉を焼いては食らう人たちが焼けた羊脂のにおいが鼻腔を刺激する空間で、食べやすいサイズの肉片と化した仔羊たちが次々と消えていきます。食後に取材許可をもらって素性を隠した潜入捜査のため普通の客を装った我々も、テーブル席へと案内されます。上ラム、ラムタン、ナマ、ラムランプ、ナマ、やみつききゅうり、ラムチョップ。羊肉が苦手な若手の手も止まりません。

善良なる一市民からの「ヤバイ取引がされている」との事前情報もあり、「手を出すな、これは俺が……」と制止したのですが、くそ。

そのうちヒツジが効いてきたのか「ラムとマトンとミトン」は誰にでも手に入るが、ミトンにだけは手が入る。ホシは……鯨偶蹄目だー」などとつぶやきながら、若手ふたりは所に戻っていったのです。

(廣部出)



《DETA》

ひつじ食堂

京都市中京区
十文字町 432-7

編集後記

レターズをリニューアルして3号目になります。発行間隔も少し長くなった分、内容をより充実させていこうとする試みの中で、今号は特集テーマを2つ組んでみました。

その中の一つ、「駅前」は、まちの玄関口として地域の個性がにじみ出る「顔」であると同時に、多くの人が利用する仕事や生活の場でもあります。社会が変化していく中で駅前に求められる役割も変わりつつありますが、各記事には、にぎわいの創出と暮らしやすさの両立、歩きたくなる空間づくりなど今後の駅前まちづくりを考える上での多くのヒントが込められていると思います。

これらが、皆さまとともにこれからの駅前のあり方を考えるきっかけとなれば幸いです。

(メディア委員会 石川)

アルパックが過去に業務で携わった場所や建物を
レターのテーマに合わせてぶらりと巡る「アル散歩」。
今回は、JR吹田駅前にある昭和レトロが残る複合商業施設をアル散歩です。



〔レターズアルパック〕 253号 2026年3月発行 株式会社地域計画建築研究所 <https://www.arpak.co.jp>



JR吹田駅前「吹田さんくす」

「吹田さんくす」は昭和54年（1979年）に駅前再開発事業で整備、開業した複合商業施設で、1番館から3番館の3つのビルに商業施設をはじめ、多目的ホールや図書館等の文化施設、オフィス、住宅が整備され、当時の都市機能を垂直に整備し空中で水平につなぐ空中都市の思想が取り入れられています。

JR吹田駅の改札を抜けると昭和生まれの私にとってはどこか懐かしさの残る風景がそこにあります。館内を歩くと専門店街には地元の人々に古くから馴染みのある個人店も残り、店主とお客様のやり取りが再開発前の商店街の空気感を感じさせます。大きな矢印のネオンサインに導かれ、階段を下ったその先には路地裏の飲み屋街をビルの地下に移植したようなのれん街があります。

地元の常連さんらしきお客様が昼間からグラスを片手にギャンブルの話でもしているのか、少し怪しげな昭和の匂いがプンプンです。4階にある多目的ホールの



大きな矢印がのれん街へ誘う

エントランスの大理石模様の床やエレベーターホールのシャンデリア、当時流行の建築デザインも現役でマニアにはたまらない空間です。

最後に立ち寄った喫茶店。昔ながらのメニューとBGM。秒速で流れる時間を少し緩めて懐かしのフォークソングを聞きながらゆったり過ごす時間もたまには良いのでは。

このJR吹田駅前再開発事業では基本計画から権利者調整、設計・監理他、アルパックがトータルコンサルティングを行いました。

建築・プランニング・デザイングループ
原田 稔



ゆったりした時が流れる喫茶店



シャンデリアが醸し出す昭和の匂い

株式会社 地域計画建築研究所〔アルパック〕 Architects, Regional Planners & Associates, Kyoto

URL : <https://www.arpak.co.jp> MAIL : info@arpak.co.jp

本社・京都事務所	〒600-8006 京都市下京区四条通柳馬場西入立売中之町99 四条 SET ビル2F	TEL (075) 221-5132
大阪事務所	〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル10F	TEL (06) 6205-3600
名古屋事務所	〒450-0001 名古屋市中村区那古野1-47-1 名古屋国際センタービル7F	TEL (052) 462-1030
東京事務所	〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-1-9 NOVEL WORK lwamotocho 5F	TEL (03) 5244-5132
九州事務所	〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-8 福岡パルビル8F	TEL (092) 283-2121
滋賀営業所	〒527-0012 東近江市八日市本町9-19 SATSUKI-RO 内	TEL (090) 1422-1096

「レターズアルパック」は、ホームページからご覧いただけます。



感想をお寄せください！

レターズ253号のコンテンツに対するご意見、ご要望等は下記二次元コード、あるいはURLからお願いします。



<https://forms.gle/FLi86CDKdetkpbw6>